

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|------------------|
| 事業所番号 | 4271401897 | | |
| 法人名 | 有限会社 風の森 | | |
| 事業所名 | グループホーム 風の森 | | |
| 所在地 | 長崎県南島原市西有家町長野762番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成 27 年 9 月 30 日 | 評価結果市町村受理日 | 平成 28 年 1 月 12 日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaiokensaku.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4271401897-00&PrefCd=42&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構 | | |
| 所在地 | 長崎県島原市南柏野町3118-1 | | |
| 訪問調査日 | 平成 27 年 11 月 18 日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

(A棟)家庭的な雰囲気作りを心掛け、心地よい家庭に近い環境を目指している。また、地域との関わりを大切に行事への参加をさせて頂き交流を図っている。施設周辺には花や果物の木を植え、入居者様と手入れを行い、季節を感じて頂きながらその方の状態や能力に応じて洗濯物の干し、たたみ、食事の後片付け、掃除の手伝い等共に行っている。
 (B棟)施設周辺いっぱい、色々な木々が植えてあり、緑がいっぱいである。四季の花々や果実にて心を癒して頂き、施設内外共に家庭的な雰囲気作りを心掛け、居心地の良い家庭に近い環境を目指している。日々の取り組みとして、「入居者様個々のレベルに合ったお手伝い」「身体レベル低下防止の為に継続したケア」「笑顔を引き出すレクリエーションの実施」を心掛けている。「統一したケア・切れ目のないケア」を実践し、入居者様に安心感を持って生活して頂ける様、職員がそれぞれ目標を掲げ支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム風の森は島原半島の四季折々の風景を楽しむ事が出来る、のんびりとした田園地帯に立地している。入居者が今まで過ごしてきた生活を尊重する事を理念とし、その人らしく生活して頂く為に職員が日々協力して支援を行っている。訪問時には入居者と職員が楽しく談笑する声を聞く事ができた。日頃から職員は入居者の声に丁寧に耳を傾け(言葉遣い・接遇マナーの向上)、信頼関係が築けていると感じられた。各種行事・日々のお付き合いの中で積極的に地域の方々との関わりもち、入居者が外部の人や物に触れる・見る事で生きがい・充実感を感じて頂くよう支援している。また、地域に根ざした介護事業所としてグループホームの役割・運営を積極的に知ってもらおうとする意欲が感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

ユニット名 A棟

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域との触れ合いを大切にして、家庭的な環境の中で生活して頂けるよう目標を掲げている。職員全員が共通の思いで支援が出来るように努めている。 | 家庭的で温かな雰囲気を作り、1人ひとり居心地よく暮らせる場所の提供を理念とし、職員一同が目標を持って最善のケアサービスを実施できるよう日々の業務を遂行している。目標達成のためにチャレンジシートを活用している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の秋祭りで施設の庭に神輿を入れて頂き、入居者様が賽銭を入れられお参りさせて頂いている。また、近所の方より野菜や花を持ってきて下さるなど交流をさせて頂いている。 | 自治会に加入しており、また地域の行事に入居者・職員が参加し、地域との繋がり途切れないよう支援している。秋祭りではホーム敷地に御神輿が入りとても賑やかであり、入居者にも楽しんで頂いている。また、日々の挨拶・行事等を通じてグループホームの運営について理解を頂いており、長年の信頼関係の構築の結果、四季折々の美味しい野菜・綺麗な花を差し入れして頂いている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方の施設見学の受け入れを積極的に行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回施設内の取り組み、実施内容など報告を行い、出席して下さった方々から意見を頂き、今後のサービスの向上に活かしている。また、各棟より1名ずつ職員も参加している。 | 運営推進会議にはホーム職員・地域住民・入居者家族・行政担当・職員が参加し、入居者の生活状況・各種行事及び避難訓練の取り組み状況等について話し合いが行われており、話し合いの中で改善すべき点が判明した場合は迅速に対応している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市町担当者が公的援助を利用されている入居者様を訪問された時、情報提供や助言を頂いたり協力体制を取っている。 | 市町村担当とは介護保険関係・日常業務の相談・公的援助者の訪問時等に情報提供や助言を頂いたりしており、協力関係が築けている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関は解放しており自由に出入りが出来るようにしている。常に心配りを怠らない様心掛けています。また、ご近所の方へも見守りや連絡して頂けるようお願いしている。 | 身体拘束及び言葉による入居者の行動を制限しないよう、入居者が戸外へ出たい意思があれば職員が協力して見守り、一緒に散歩へ出向く等の対応をしている。外部研修を活用して職員が常に身体拘束しないケアについて意識して行動できるよう運営をしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 入居者様の身体の状況を常に観察し、異変が無いが確認している。言葉の暴力に対しても同様であるので職員全員で注意し防止に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修会へ参加し知識を得ている。必要な時は対応出来る体制を取っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約や契約前には入居者様やご家族様へ十分な説明を行い同意を頂いている。また、不明な点についても再度説明を行い納得して頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者様に対しては日々の暮らしの中からコミュニケーションを大切に、また、常に傾聴に努めご家族様に対しては面会時や電話等にて報告する機会を設けている。玄関には苦情箱を設け意見・要望・苦情を投函頂けるようにしている。 | 家族からの意見は意見箱を活用する事や訪問時に入居者の生活状況を説明する際に伺っている。また、意見を言いやすい環境作りの一環として家族がホームに訪問した際には、忙しい時でも「笑顔で挨拶」する事をホームの方針としている。入居者の声を運営に反映させる為に、日々のコミュニケーションが大事だという意識を職員一人ひとりが持ち、利用者が意見を出しやすいようにしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月1回全体会議を行い、職員の意見・提案・要望を聞く場を設け、運営に反映させている。 | ミーティング時・申し送り時・日々の業務時に職員からアイデアがあれば、それを積極的に取り入れるようにしている。最近の意見ではお風呂に車椅子が入るスペースがあれば入居者が楽に入浴できるという声があがったので、実際にスペースを広げる工事を実施する等、意見が反映されやすい環境である。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 目標に対しての自己評価を行い、代表者・管理者により半年に1度個人面談を行うことで環境、条件の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は半年に1度の面談などにより力量の把握に努めている。また、外部研修への参加を呼び掛け、その後、月1回の全体会議にて参加した職員が研修内容を報告し情報共有に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 色々な外部研修に参加したり交流会や親睦会に参加し情報交換を行っている。そこで得た情報をもとに知識を高め、サービスの質の向上に努めている。地域のグループホームケア研修会にも加入している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所される前に入居者様若しくはご家族様との会話を十分にして不安や思いを把握しニーズに対し対応出来る様に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用される前に見学、どんな所かご家族様、入居者様の思いを把握しサービスの提供に努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 介護保険、高齢者福祉、生活保護等を含め、必要な時は関係機関へ相談、助言を得るよう努めている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 食後の食器拭き、テーブル拭き、洗濯等、入居者様と共に助け合い家族同様な環境を心掛けている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時や電話で状態報告を行っている。入居者様の不安なことの相談を行い、対応について意見を交換したりして入居者様を支えていくように支援している。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居者様の外出の希望に添えるように、ドライブ、買い物、散歩等外出の機会を行っている。 | 入居者が今まで培った友人・知人等の関係が途切れないよう、電話・手紙・外出の支援を積極的に行っている。また、ホームの立地場所は綺麗な田園風景が楽しめる場所であり、戸外へドライブ・散歩に出向いた際には楽しんで頂いている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 一人ひとりの能力や出来ることを見極め、互いに尊重し支え合える関わりを大切に思い支援に努めている。洗濯物干し、たたみ、新聞折り等を皆で分担しながら行って頂いている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 必要と思われる場合は自宅訪問や電話での相談を行い、状況に応じて入居者様了解のもと、介護支援専門員やサービス提供者への報告を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者様の意向を把握し、困難な場合は職員とご家族様が相談し対応策の検討を行っている。 | 入居者が思っている事・やりたい事を把握するために、一人ひとりの性格・趣味等を観察し、それを職員間で共有し、出来るだけ入居者の意向に沿った生活が送れるよう支援している。また話しやすい環境作りのため職員が入居者に話しかける際は優しい言葉遣いをする事を方針としている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居されるときには入居様及びご家族様に今までどのような生活を送られてきたか、好まれている物を尋ね馴染みの深い品物等を持ってきて貰っている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの毎日の生活状態を記録に残し、心身の状態の変化を見逃さない様に、入居者様のやる気を起こして頂くよう支援を行っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 月に1度会議を行い担当職員が入居者様の今の状態を報告している。ご家族様の方々に要望などを頂きながら他の職員と意見交換を行いプランを作成している。 | 担当者・ケアプラン作成者が協力して入居者の生活状況に応じた介護計画を作成するようにしている。家族意見や入居者の生活状況に変化があれば、それを介護計画に迅速に反映させるような運営体制が整っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日の結果をケアプランチェック表の記録している。日々の気づきや変化があれば月に1回の会議等で検討を行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 入退院時、外出、外泊時等、入居者様やご家族様の希望に添えるように柔軟な体制をとれるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の方々のボランティア・地元の小学校との触れ合いを大切にしている。 消防団の方、地域の方の参加も含め消防訓練等の安全面も心掛けている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | ご家族様や入居者様の希望の病院との連携を図り、往診の際、気づきや変化があれば主治医、ご家族様に報告を行っている。 | 家族・入居者から病歴や処方薬について伺い、眼科・歯科・皮膚科医等の適切な専門医療受けられるよう、家族と職員が協力して受診支援を行っている。定期的にホームへの往診があり、体調変化があった場合は迅速に対応しやすい。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 入居者様の体調の変化があった時は、施設内の看護師に報告、相談を行っている。 病院との連携も図っており、24時間体制で入居者様の健康管理に留意している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入居者様が入院された時は、病院と連携し常に情報交換を行いながら、安心して何時でも帰所出来るよう受け入れる体制づくりを行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 看とりに関してはご家族様、入居者様と話し合い、主治医と相談し可能な限り希望された時は、向き合っていくようチーム全体で支援できるよう取り組んでいる。 | 看取り介護に関しては家族・医師・入居者の意見に基づき、希望があればホームでの支援を行うようにしている。重度化した際に入居者に身体面・精神面でより安心した生活を送って頂くために、勉強会等で知識・技術の充実に努めている。 | 重度化した入居者に最善のケアを行えるよう勉強会等を実施し、看取り介護についての教育の充実を期待したい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変や事故発生時の対応として、訓練やマニュアルがあり、また、ヒヤリハットの時点で未然に防ぐ努力を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている | 毎年2回消防署の指導を受けながら、担当を決めて職員全員参加による訓練を行っている。また、地域の方たちも協力してもらえよう体制を築いている。 | 定期的な消防訓練の実施、及び緊急対応マニュアルの作成周知を通じて職員の緊急時対応や役割分担が教育されている。避難訓練で反省点が判明した際は、それに対する改善案を実施できるよう協力して運営がなされている。 | 災害時の備蓄品(食品)について消費期限が管理できるよう、消費期限付きの備蓄品一覧表の作成を期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 一人ひとりの人格を尊重し人生の先輩として敬う気持ちを忘れず接している。個人記録も外部に触れない様努めており気持ちよく過ごして頂くよう努めている。 | 職員は入居者の誇りやプライバシーを損ねないよう、会話の際は目上の人に対する言葉使い・入居者が知られたくない情報をみんなの前で言わない等、丁寧にコミュニケーションを取る事を意識している。また市主催の接遇マナー講習に参加し、より入居者に不安が生じない生活を送って頂けるよう職員教育行っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 会話の中でそれぞれ職員が入居者様の思いを把握し、いつでも自己決定出来るように努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 居室で過ごされる方、フロアで過ごされる方一人ひとりの気持ちを優先し、その人に合った支援を心掛けている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 外出や入浴の際、入居者様の着たい洋服などを尋ねながら希望の服を着て頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | おかゆやキザミ食など一人ひとりに合った食事を提供し、楽しんで食事出来る様努めている。また、台拭きや食器拭きもお手伝いして貰っている。 | 入居者が食べやすく、栄養面を考慮した献立作りとなっている。また、食事に係る一連の作業に入居者が関わる事で生活能力の向上にも活かされている。父の日・七夕等の行事の際には四季に応じた食事メニューとなっており、食事を楽しんで頂いている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎食後に食事量、水分量を確認し記録に残している。摂取量が少ない時は、補食で提供したり、高カロリー飲料等で栄養を補給している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 自力にて出来る方には、食後声かけし行ってもらっている。その他の人は介助を行い口腔ケアを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | チェック表を確認しながら声かけし、トイレでの排泄が出来るように支援している。失敗された時も他人に気づかれぬような対応を心掛けている。 | 排泄チェック表を基に、入居者一人ひとりに応じた排泄支援を行っている。意思を伝えるのが苦手方に対しては表情・仕草から排泄の意思を読み解き、入居者がストレスを感じる事なく生活を送れるよう配慮している。またトイレは清掃が行き届いており、トイレ用品も整理整頓されていた。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日排便の確認を行い、便秘にならない様運動を取り入れながら主治医と相談し、スムーズに排便が出来るよう取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 一人ひとりの入浴のスタイルを大切に、見守りや介助をしながら気持ちよく入浴して頂ける様支援している。 | 入居者個々の頻度・湯音を考慮して、ゆっくり入浴は楽しんで頂けるよう入浴支援を行っている。入浴介助時は入居者とのコミュニケーションの場と考え、楽しく会話する時もある。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 生活習慣や体調に応じて安眠や休息して頂ける様支援している。不眠者に対しては主治医と連絡、相談を行っている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 受診、往診時に指導を受けた内容や処方内容をしっかり記録し、職員全員が把握できるようにしている。また、食後の服薬もチェックしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 出来る事を出来る範囲で手伝って頂き、お礼・感謝の言葉をかけている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ドライブや買い物に出かけたり、季節を感じてもらおう為に花見に行くなど楽しんで頂いている。 | ホームは田園が広がる場所に立地し交通量も少ない地域の為、入居者はのんびりとした散歩が楽しめる。ドライブの際は紅葉狩りに出向くなど、四季に応じた風景を楽しんで頂いている。最近では地域の介護利用者が集まった風船バレー大会にも参加し、入居者の気分転換にも繋がっている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入居者様の必要な物の購入の訴えがあった場合、すぐ使用できるように支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 入居者様の希望時は電話の仲介や支援を行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の品や花などを飾り、入居者様が心地良く過ごせるよう工夫している。また、入居者様の食器等を使用し、心地良く食事して頂くよう努めています。 | リビングには食事を楽しむスペース、テレビをソファで見るスペース、寝転がれる座敷があり、入居者の目的に応じた使用ができる構造となっており、ゆったりとした生活を送るには良好と感じられた。リビングデッキがあり、日当たり・風通しも良い好環境である。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ソファーやテレビ等を置き、入居者様同士楽しく過ごして頂ける様工夫している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者様の馴染みの家具や仏壇などを持ち込んで頂き、その人らしい空間を作り生活できるよう支援している。 | 入居者が以前していた生活を送って頂けるよう、馴染みの品・生活用品の持込みは入居者の希望に沿うようしている。居室は清掃が丁寧に実施されており、入居者もストレスなく生活を送れると感じられた。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 室内は段差が無いようにしてあり、手すりも取り付けられて廊下には長椅子を置いている。一人ひとりに合った支援を行い不安を取り除ける様努めている。 | | |

自己評価および外部評価結果

ユニット名 B棟

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域の方々と共に生活していくという、地域社会との繋がりをもちながら、今まで生活してこられた家庭環境の延長として、穏やかに暮らして頂ける事を理念としている。全職員が「統一したケア・切れ目のないケアによる安心を与える」ことを共通の目標とし、日々のケアを行っている。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 毎年、地域の秋祭りの際、神輿に立ち寄って頂き、お参りや神主さんによるお祓いをして頂いている。施設周辺からの入居者様も多く、顔なじみの方の面会や地元で取れた野菜やお花等を持ち寄って下さり、入居されている方々も安心して過ごされている。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 小・中・高校生の福祉体験の場所として利用頂いている。また、地域の方々の施設見学の受け入れや介護に対する相談等にも応じている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 広域・地域代表・ご家族様代表の方々、また、それぞれのご家族様にも参加を呼び掛け職員も同席して行っている。入居者様の状況、施設の活動状況、ケアの内容、職員の研修状況等を報告、それに対する評価やご意見を頂き今後のサービス向上に活かしている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 生活保護等、公的扶助を受けられている入居者様の担当者の方々へ必要な情報を提供したり、助言を頂いたり協力体制を取っている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 全職員による勉強会を行い、身体拘束しないで生活できるケアを考え、取り組んでいる。職員が見守りを重視することで、入居者様が自由に行動できる体制を取っている。玄関や居室の施錠は行わず自由な出入りや開閉ができており、言葉使いにも注意を払っている。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 全職員で虐待防止の勉強会を行っている。入居者様の日頃の様子、身体状態を十分把握し、様子の違いや変化を見逃さない様心掛けている。常日頃より虐待する事のない様周知徹底行っている。 | | |

| | | | | | |
|----|-----|--|---|--|--|
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修へ参加したり、全体会議にて勉強会を行い、制度を理解できるよう取り組んでいる。現在この制度を利用されている入居者様がおられ、担当者の方とも情報を共有し支援に努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時や解約時には事前又は当日に時間を設け、施設長をはじめ事務長、職員が入居者様、ご家族様へ同意を頂き十分な説明を行っている。疑問や不安があった場合は随時相談下さるよう申し出ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者様に対しては日常生活の中の会話や表情、しぐさ等の中から要望が読み取れるよう常に傾聴に努めている。また、ご家族様に対しては面会時や電話等にて現状の報告を行いご要望を聞ける機会を設けている。また、苦情箱を設置し無記名で投函して頂けるようにしている。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日頃は回覧ノートや申し送りを通じ、常に管理者や代表者と意見・情報交換を行える環境であり、実践できることは直ぐに申し送りにて各職員へ情報共有し、実践している。また、月に1回の全体会議にて各棟の意見等を代表へ申し出ている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 施設の方針である「統一したケア・切れ目のないケアによる安心感を提供する」に向かい職員が個々でそれぞれ目標を立てている。目標に対しての自己評価、代表・管理者の評価をふまえ、半年に2度個人面接行っており、個々の状況の把握に努めている。また、外部研修や内部研修等により向上心を持って働けるよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 代表者は個人の目標設定の把握や半年に1度の個人面談により力量の把握に努め、内部研修の実施や外部研修の情報提供や促進を行っている。外部研修へ行けない職員に関しても回覧や全体会議での報告会にて研修内容を振り返り情報共有に努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 外部研修の主催者が色々おられ、色々な外部研修に参加する事で情報交換を行い、それを自施設へ持ち帰り、サービスの向上に努めている。また、ホーム長会議に毎回参加することで情報交換することで情報を得ている。 | | |

| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
|-----------------------|-----|--|--|--|
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居者様と面談を行っている誰しもが新しい環境に不安であるという事を念頭におき、まずは職員表情、態度、雰囲気に関心している。生活の中での会話、表情、態度の中から要望が汲み取れるよう努め、身体並びに精神状態の把握に努めている。職員全体で情報を共有し入居者様の状況を考慮し話し合いにて環境、雰囲気づくりに努めている。面談を行っている。 | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族様と面談を行っている。フェイスシート等を活用し「暮らしに関して」「介護に関して」「医療に関して」など入居者様への思いやご家族様の思いを受け止め反映できるように努めている。 | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 介護保険、高齢者福祉、生活保護等を含め、必要な時は関係機関へ相談を行い助言を得るよう努めている。 | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 精神的状態や身体的状態を勘案し、皆様と同じ空間で過ごす事で良い関係作りに努めている。 | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時や電話にて状態報告を行っている。また、状態変化だけではなく、お互いに不安な事の相談を行い、対応について意見交換をし、同じ思いで対応出来るよう努めている。 | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 外出が困難な方はご家族様に訪問して頂いたり、ご家族様協力のもと墓参りや自宅への外出等へ支援に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 一人ひとりの能力や身体状態、性格等を見極め、お互いに尊重し、支え合える関わりを大切にしている。日頃皆様に洗濯物たたみや新聞紙折りを分担して行って頂いている。 | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 必要と思われる場合、自宅訪問や電話での相談等を行い、状況に応じて入居者様の了解を得て介護支援専門員やサービス提供者へ情報提供を行っている。 | |

| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
|-----------------------------|------|--|--|--|--|
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者様の思いや意向を第1に考え、また、ご家族様の意向を踏まえうえで3カ月に1回ケアマネジメントを行っている。必要な時はご家族にも協力をお願いしている。困難な方への対応はご家族様への相談を行いその方らしい支援が出来るよう努めている。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 生活歴や家庭環境を把握し、入居者様の習慣等を大切に行っている。また、馴染みの物や大切にしてきたものを持ち込んで頂くようお願いしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの過ごし方くつろぎ方を把握し、日頃より状態等の変化を見分ける等努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 一人ひとりに担当職員を決め十分に入居者様の状態把握に努めている。介護計画を立てる際は、入居者様及びご家族様の意向にあったケアが出来る様職員全員で意見交換を行い進めている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人別にファイルへ1日の状態を観察し記録を行い、全職員情報を共有し、検討が必要な場合はケア会議時に対応やケアの方向性を見直している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 入院や退院、外出や外泊等入居者様やご家族様の意向に柔軟な体制を取っている。 | | |

| | | | | | |
|----|------|--|---|--|--|
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議委員の中に地域の方、消防団所属の方に協力頂いている。また、地元小学校やボランティア等の協力も受けながら支援を行っている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居者様やご家族様が希望される病院を受診して頂き、日々の状態や緊急時の状態等の報告を行っている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 日々の健康管理や状態変化を把握し、主治医と看護師等とのやり取りも日頃から相談出来る体制を取っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 個人情報に関する同意を得てご家族様や施設、医療機関情報を共有し早期退院の支援を行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末期についての指針を作成し、それに基づいて施設、ご家族様、医療機関の方向性を共有し、重度化した場合についても入居者様及びご家族様の意向を尊重した上で医療機関との連携について方針を共有し対応している。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 日頃より医師や看護師の助言を頂き対応出来る様努めている。緊急時対応マニュアルを作成し職員に周知し対応している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている | 昼間、夜間、地震、火災を想定した避難訓練・消火訓練を地域の方や消防団の方に協力頂き年2回実施している。また、火災等を未然に防ぐため建物の点検、火気設備器具、消防用設備、避難用資材を月に1回点検を行っている。 | | |

| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
|---------------------------|------|--|---|
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 常に言葉掛けには細心の注意を払い、慣れ親しんだ中でも礼儀を忘れず対応している。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者様の気持ちを聞き入れ、表情や反応を注意深く観察し、入居者様のペースに合わせて本人様が思いを伝えることが出来るように心掛けている。 |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者様と話し合い、その都度希望を聞き入れ対応し、その日の気分や体調に合わせて選択ができる。食事時間や入浴時間なども心掛けている。 |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 訪問美容を利用し、入居者様の希望に応じた髪型をされている。洋服の選択は出来る限り入居者様にお任せし、また、職員と一緒に選ばれている。 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 料理の下ごしらえや味見、片付け等出来る事は職員と一緒にいき、一緒に食事を楽しんでいる。食事の時間を大切に出来た時の喜びも分かち合う。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとりの状態に合わせて普通食、キザミ、おかゆなどで栄養のバランスが取れるように対応している。水分量や食事の摂取量も記録しており、摂取低下気味の方には高カロリードリンクやゼリー等で栄養補給して頂いている。 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後入居者様の状態に合わせて口腔ケア、見守り、介助を行い、口腔内を清潔に保って頂ける様努めている。 |

| | | | | | |
|----|------|--|---|--|--|
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人ひとりの排泄パターンを把握し、長時間訴えない時は声かけを行い誘導を行っている。入居者様の力に合わせ見守り、介助を行い、能力低下しない様夜間も声かけを行いトイレ誘導し排泄している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日の食事に注意し乳製品、野菜を多く取り入れバランスの良い食事を気をつけている。排便記録により一人ひとりの状態も把握しており、必要に応じて主治医への相談もしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入居者様の体調、気分に合わせて入浴して頂いている。一人ひとりのペースに合わせて、ゆっくり楽しんで頂きながら見守り、介助を行っている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 入居者様の自室が個別にあり体調や生活習慣に合わせて、自室及びフロアから自由に選択できるよう支援している。なお、自室には冷暖房等が完備し、TVも置けるようになっており快適に過ごして頂ける様努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 処方内容を薬管理に記録し、内容を把握、し常に確認で出来るようにしている。なお、服薬能力に応じ見守り、介助を行い服用後のチェックも行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 洗濯物をたたんで頂いたり食事作りの味見もお願いしている。楽しみの一環として、1日の生活の中に風船バレーや色々なレクリエーションを行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 一人ひとりその日の希望や気分を配慮して、ご自宅や墓参り、ドライブ等に出かけられるよう支援している。 | | |

| | | | | | |
|----|------|--|--|--|--|
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入居者様の力に合わせて管理できる方には管理をお願いし、管理できない方においては施設で管理し、いつでも使えるよう支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 入居者様の希望にいつでも対応できるよう準備している。また、電話仲介や手紙の代筆等も行い支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節に合った品や花等を飾ったり清潔・美化に努め、居心地良く過ごせるよう工夫している。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 施設内やデッキにテーブルや椅子を複数置き、1人になったり気の合う方々と一緒に過ごせる場所を用意している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた生活用品を置きご家族様の写真や装飾品を飾り居心地良く過ごせるよう工夫している。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 施設内は全てバリアフリーになっており、要所には手すりを取り付け安全確保に努め、入居者様の自立への支援も行っている。 | | |